



育兒の經驗

東京高等
師範教諭 光藤 泰次郎

自治自頼

自分の事を自分で始末する習慣の大切なるは今更
こゝに喋々の辯を弄する必要がない。そこで此の
大切な習慣を養ふことに頗る苦心をいたしまし
た。

第一食事 食事をいたしまするに御飯を戴くやう
になれば、皆すぐ自分で茶碗と箸とを持ちていた
だくやうに氣を着けます、此の習慣を養ふ初に當
つては甚だ手數がかゝつて面倒なものであります
ソロリソロリと戴きますのをジツと待つ辛抱をし
なければなりません、小供が不慣のためたべこぼ
して前掛やら着物やら畳まで汚す恐がある、それ

をも忍ばねばなりません。それよりは寧ろ側につ
いて居る者が世話して養つてやる方が余程手數が
かゝらず、面倒が省けて楽な位であります、しか
しそれは茶碗と箸とを持ち始めた當座だけの事
であつて、一二月の辛抱面倒を見さへすればあ
とは自分一人で自由勝手に食事する事が出来て、一
割合に長く養つてやるといふ手數が省けます。一
體子供には模倣心の非常に強いのがありますから
之を利用しさえすれば此の習慣の如きもさう難く
なくつきます、宅では長男に此の習慣をつけまし
たが、其の時分長男はとうさんやかあさんのやう
に一人で持つてたべると申しますから其の意にま
かせて遂にさういふ風になりました、長男に其の
習慣がつかますればそれから後は譯はありませぬ
皆長男を見やう見まねし容易く其の風に化して行
きます、一昨年九月に生れた次女は（此の三月
に丁度一ヶ年半になります）此の正月頃から
一人で箸を持ち始めまして、今では兄や姉と同様
にあまり世話もやかせず、一人で食事をして居り
ます。

第二兩便 尾籠な話でありますが、兩便の始末は子供の身に取り健康清潔其他種々の點に關係を持つたものであつて、忽ち諸に附するとは出来ません。極幼い頃の習慣はどうも自分の思つた通りに習慣はつきませんでした、それは人手の少いのと、他人任せにおくとのためでありました。こゝで私の抱いて居る考を述べてもよいのですが、實行の出来なかつたをいふの必要もありません。此の點は省きます、さて子供が一人あがきが出来るやうになれば即ち數へ年三つ頃になれば御小用は無論一人でたすとの出来るやうにとめましますし、大便の時も一所に行つて注意しては居ますが、ソロソロ一人で拭くを習はせまします、最初のうちは種々失敗するともあります、しかし子供にやらすかと却つてきたなくもあるし、面倒でもあるなど、考へて親なり、お附なりが手をかけますればいつまでも子供は人をたよつて自分でする氣にはなりません、それもいつまでも家にばかり居るならば宜しいが、幼稚園に出すべき時期はいつの間にか到來します、其の時期になつて幼稚園に出したい

が、しかし兩便の始末に困るなどというても急に其の習慣はつくものではありません、金があまりあり人手も澤山あつて「自分の家ではそんな始末はお附にやらせる」といふ方は御隨意ですが子供に早く自治自願の習慣をつけたいと思ふ方は、盗人をつかまへて繩をなふといふやうな事をせず、成るべく早くかういふ習慣をつけられたがよからうかと思ひます。

第三衣着 着物を着るといふとも子供の一つの仕事でありまして、これもしつけ方によつては案外早く自分で着る習慣をつけるが出来まします、又やり方によつてはいつまでも人の手を要します。さて是等の習慣をつけてしまふまでは却つて面倒でもあり、手數もかゝるもので、子供がソロソロとシャツを着、ボタンをはめ、洋服を着、其のボタンをはめるなど、そばで見ると殆んど堪へ難いやうに感ぜられます、しかし最初は時がかゝり且面倒でわらうともかう仕つけた方がよいとは争はれない事實でありますから、順次皆此の方針で仕込んで参ります幼稚園に行き始める頃から殆ど

手はかゝらなくなりませす。幼稚園から歸つて来て
も着物を出してやりさへすれば一人でサツサと着
換へませす、たゞ帯をしめるのだけはどうも甘く參
りませせん、それ故にこれ丈は手傳つてやるともあ
りませす。
第四穿靴 下駄をはくとは容易く一人で出來ませ
が、靴になると、紐を結んだり、或はボタンをか
けたりするので一寸面倒な所もありませす、しかし
これも勿論一人でやらせつけませす。最早幼稚園に
行き始める頃には可なり上手に出來るやうになり
ませす、靴を磨くのは大へんやりたがりませすが、ど
うも着物をよむし、クリムを多分に使ふ恐れが
ありませすので、外の者が磨く時に同時にやらせる
位で全く一人で放任してやらせませせん、しかし
頃になつては一番大きなのには自分の靴の塵を拂
ふのみならず、父の靴の塵を拂はせ、或は自身の
靴を全く一人で磨かせませす、兄が靴を磨いて居り
ませすと、妹も側に來て私も磨くといふては塵を拂
つたり、クリムをつけてこすつたり、忽ち習慣
がついて仕舞ひませす。

第五入浴 入浴に致しましても湯屋に參りまして
は傍について居て十分の注意を以て一人で出入す
るを習はせませす、最初は一寸こはがるやうのと
もありませすが、すこし手助けしてやつて出たり又
入たりするをが出來ませすと自身の力でそれ丈のと
が出來得るといふ自覺が出來随つて満足が出來ま
す、數へ年四つになる頃から此のやうにしまはじめ
ませすと凡そ其の年の内にはすつかり一人で出入る
やうになりませす、浴場に參りまして一人で出入り
させませすと、傍に居る人は大へん險呑に思はれる
のかして深切の心から出したり入れたりして下さ
るをも度をでわります、見ず知らずの他人がから
までつくして下さる親切の心は實は感謝の至りに
堪へませせんが、しかし當人は今出たり入つたりす
るとの稽古をして居るので實は其の稽古も度々妨
げられるとがわります。定めて子供にかやうな事
とさせるとは冒險なものをやうに思はれ又甚だ親が
無情のやうにも思はれるでありませうが、決して
親は無情ではない積りであります、親の手で入れ
るなり出すなりは容易く出來るのであるけれども

子供に自分から出入りする習慣をつけやうと苦心をして居るのです。しかしかやうな深い心があらうとは誰も思ひ知る筈がありません。かくの如くにして子供の爲には毎度他の人へ頭を下げ、腰を低くするに及びます、湯に入つてからも顔なり手なり頭なり足なり腹なり自分で洗ひ易い所はどん／＼洗ふといふ習慣をつけやうと始終つとめて居ります、此の頃では八つになる兄や六つになる姉は自分の手足を洗ひ顔や頭を洗ふ外に湯をくむといふ役目をいひつけてあります、弟や妹が多数ある爲にちつとも不平をいはず、喜んで湯をくみ、水を汲むの勞役に服します。

第六步行 あるくことが出来るやうになれば成るべく自身の力で歩行くやうに氣をつけて居ります、他所へ出かけます、時に子供にあるかせるよりも抱くなり、負はせるなりした方が餘程早くて面倒はないですが、しかしそれでは何時までも足が達者になりません、足を達者にしやうと思へばどうしても澤山歩行く稽古をさせねばなりません、それ故に成る丈氣を煉らして子供を歩ませます。若

し足が既につかれてきて抱かれたり負はれたりしたがるやうになりませすれば抱きつきりに抱くといふをせせず、抱くと歩かせるのを交互にさせます自分の傍の電信柱から電信柱までの間を抱いてやりまして、サア柱の處へ来たから御あるきなさいといひてあるかせ、其の次の柱から又抱いてやる若し疲れ方がひどくなつたら三つ目なり四つ目なりの柱まで抱いてやり、歩かせる方を少くする時には柱の代りに曲り角に來たならば抱く歩かすの交替をさせても宜しい。此の方法は子供をして思はず知らず澤山の道があるかすとの利益があると同時に自分等と殆ど何の交渉もない電信柱とか曲り角とかいふものゝ觀念を確にするとの副次的の利益もある、かやうにして足ならしむて行けば幼稚園に入る頃には可成り足は達者になつて餘程の遠距離にあらざるよりは車の力、人の力を借りる必要はあるまいと思はれます、私の處の子供は皆づかやうな風に取り扱つて來ました。

第七自分の品物の始末 子供の所有の物を大切に保存し且自分で始末させる習慣をつくらうと務め

ましたか、どうも品物を大切にするといふ習慣は思ふやうにつきませんでした、たとへば玩弄物を買つて與へましても繪葉書を買つて與へましても子供の力にて容易く破り得らるゝものはどうも大事にとつておくといふをはありませぬ。實によく破壊いたします、たとへば電車のやうなもの、汽船のやうなもの、大鼓のやうなもの、人形のやうなもの、つぎつぎにいくら買つて與へたか一寸數へ難い程であります、しかし是等のもので今残つて居るものは一つもありません。子供といふものは破壊性に富んで居るのであるから、それでかやうに破壊するのであらう、破壊する間に幾分なり智識を得ればよいとあきらめて居ます、纏つて考へて見ますと、日本の玩弄物は價は安いとは安いが、安からうわるからうの謔にもれず、實に破れ易い、活動力に富み破壊性に富む子供のたからこれは破れるのが當然で、若しも此の玩弄物を破るとの出来ぬやうな子供ならそれこそ病身の極ひよわい子供であらう、それよりか玩弄物は幾つこはさうが身體が丈夫で、活潑で元氣よくてい

きいさして居る方が余程ましであるといふ心慰めて居ります、今子供の破るもの出来ない玩弄物は金胴の獨樂、シットロポール、其の他幾らもありませぬ、ゴムマリの如きは忽ち針の槍につき透され、或は鉄の刑具ではさみ斬られますし、紙風船ゴム風船の如きは忽ち唾にて破られ手にて破られて見るもあはれな最後を遂げます、さて子供は見さかひがありませぬから折々は私の雜誌の表紙を引き破り、挿繪をとり、中へは墨や鉛筆にてくろくく塗るをもあります、しかしこれも年と共によくなりまして一番の兄と次の妹の如きは最早せんなどは少ともありません。自分のものたとへば其の他自分の着て居た物を始末し、朝起き出た時寝衣を始末し、自分のはいた足袋や靴下とは皆定めた場所に入れかくやうにさせました。

また兄は弟のものを始末してやり、姉は妹のものを片附けてやるといふ風にしておきます、かくするには子供のために十分設備をしてやりますと、あまり力を費すとなしに此の長習は養はれるだらうと思ひますが、設備が甚だ不十分な爲に力を盡した割には十分に養ひませぬ併し長男や長女はやゝ物が分つて養ひましたから、よくこちらの云ふことも分りますし追々好成績をあげ得るだらうかと楽しんで待つて居ります